

令和6年度 第3回佐倉市子育て支援推進委員会 会議録

会議名称	令和6年度 第3回佐倉市子育て支援推進委員会
開催日時	令和6年11月8日(金) 午後1時15分～午後4時00分
開催場所	佐倉市役所 議会棟全員協議会室
出席者等	<p>●委 員 阿部委員長、斉藤副委員長、田中委員、本間委員、荒畑委員、和泉委員、中川委員、大西委員、中間委員、藤平委員、桑原委員</p> <p>●事 務 局 こども政策課 齋藤課長、田中副主幹、長谷川副主幹 笠松主任主事、横田主任主事、谷口主任主事、檜垣主任主事、菅野主事 こども保育課 ダドバンド主査、小出主査、鳶田主査 こども家庭課 秋葉副主幹、宮田副主幹</p>
会議議題	<p>議題 等 (1) 子育て推進委員会のスケジュール修正について (2) 佐倉市こども計画案(未定稿)について</p> <p>報告 等 (1) 高校生ワークショップの実施状況 (2) 南志津保育園後継園のフォローアップ状況</p>

【1 開会】

【2 議題等】

- 議題1 子育て推進委員会のスケジュール修正について
- 議題2 佐倉市こども計画案(未定稿)について

【3 報告等】

- 報告1 高校生ワークショップの実施状況
- 報告2 南志津保育園後継園のフォローアップ状況

【4 閉会】

(事務局)

【配布資料を確認】

(委員長)

【出席人数を確認】

それでは、議題の「(1)子育て推進委員会のスケジュール修正について」事務局からの説明を求める。

議題 1 子育て推進委員会のスケジュール修正について

(事務局)

【資料 1 令和 6 年度スケジュール修正案を用いて説明】

本委員会のスケジュールについては、第 1 回の会議の際に、提示した。その時は、5 回の開催を予定していたが、現在のこども計画の進捗を踏まえ、1 回追加したく思う。

資料中、第 4 回が追加した内容となる。こちらは、本日のように集まる形での開催ではなく、書面での開催とする。具体的には、12 月中旬ごろに「佐倉市こども計画の素案」を送付するので、それに対して、書面で意見をいただきたいと考えている。

本日、「佐倉市こども計画案」について、当推進委員会に諮問をさせていただいているが、1 月 10 日(金)の第 5 回委員会で答申をいただきたいと考えている。それに先立ち、本日と、12 月とにご意見をいただきたい。

年末の忙しい折、大変恐縮だが、ご審議のほどをお願いしたい。

(委員長)

事務局から説明があった「(1)子育て推進委員会のスケジュール修正について」ご意見はあるか。

【意見なし】

(委員長)

それでは、議題の「(2)佐倉市こども計画案(未定稿)について」事務局からの説明を求める。

【資料 2 佐倉市こども計画案(未定稿)を用いて説明】

(事務局)

それでは、資料2佐倉市こども計画案(未定稿)をご覧いただきたい。こちらはまだ未定稿で、庁内にも投げておらず、当推進委員会が初出となる。

従って、まだ空欄もあり、字句の誤り等もある段階で、全然固まっているものではない。この段階で提示する目的としては、2つあり、1つは、まだまだご意見を反映できる余地がある段階で、ご意見をいただきたい、ということ。もう1つは、計画全体のイメージが沸くのではないか、ということで、提供させていただいた。

一旦、1章から7章まで、担当から順にご説明させていただきたい。

【1章～7章まで事務局から説明】

(委員長)

ただいま事務局から説明がありました「(2)佐倉市こども計画案(未定稿)について」皆様からご意見を伺いたい。議論が進むと大きな変更ができないと思われるので、大きな意見ほど今日の会議の中でお願いしたい。

(委員)

こうした計画についての話を、4カ月に1回ある施設長会議で、保育園に関わる場所だけでも話してほしい。自分たちの行っている事業が佐倉市のこども計画にこのように貢献されているという大枠の話があると、保育園の施設長の方にとって励みになり、1つの目標になると思う。

また前回の会議でも少し話したが、朝ご飯を食べてこないお子さんが多く、半分生活リズムがずれているお子さんが多いように思う。このままでは小学校に上がった時に自立して生活していくうえで課題があるのではないかと感じている。細かいことは計画には載せられないということは十分にわかっているが、計画を実際にも実施する、保育園や託児所、学童などで具体的に追加でどのようなサービスが提供できるのかということも可能であれば考えていく、あるいは事業者に提案してほしい。例えば、今ハウス食品さんが自動販売機を保育園等に設置し、夕ご飯を買って帰れるようなサービスを事業者さんと連携して展開している。そうしたこどもを預かることにプラスして各家庭への支援を保育園でも実施したい。朝ご飯も例えば週2回なら希望者にご飯とお味噌汁ぐらひは提

供してもいいですよ、その場合は別途お金を徴収してもいいですよという風に具体的に示していかないと、この計画の話は次回するときには話が進展していかないのではないかと心配している。

（委員）

和田地区は、ますます少子高齢化が進んでおり、小学生も数人しかいない。この先、将来的にどうなるのか心配している。

（委員）

先日小学校の学校評議会に参加し、生成 AI の講義をお子さんや保護者の方と一緒に聞き、校長先生ともお話ししてきた。

校長先生がおっしゃっていたのは、もっと地域の人を学校に呼び、地域の力をこどもに使ってもらいたいということだった。

例えば、学校でいえば、地域の人がこどもたちに教える、学校外であれば、地域食堂や居場所づくりなどいろいろな場面で関われると思う。

私は地区の社会福祉協議会の事務局にも携わっており、感じたのは安心して子育てしたり、地域に暮らすためには、地域の力が必要だということである。公のサービス以外のところが上手く活用または活躍できるような仕組みや補助を計画に組み込んでほしい。

また、佐倉市は駅や職場に行きづらいと思うので、まちづくりとして人がより移動しやすく、施設が使いやすい、安全で安心して暮らせるように関係機関と連携してほしい。暮らしやすさで心の安定が得られるようにしてほしいと思う。

（委員）

色々な支援があったり、これから始まるということを見ても感じた。ただ、その支援が本当に必要な人に届いているのかと思う。学校では経済的な支援は難しいが、経済的な支援を求めているご家庭は多い。そうしたなかで、こうした支援があるということを知っているのかと感じる。計画が策定されてからの話にはなると思うが、どのように必要としている人たちに周知していくのかということが今後大きな課題となっていくと思う。

（委員）

話を聞いていて、2点気になった点がある。

1点目、こども食堂は月1回お弁当を作って配布するという事だけをしているため、こどもたちが集まってくつろいだり、誰かとお話をしたりする場所となっていない。現在佐倉市には、21か所のこども食堂があるが、こうした形のこども食堂は半数ぐらいであると思われる。皆様の認識では、こどもたちがきてワイワイ騒ぎ、親御さんは情報交換をする、そしてどちらかという、貧困なご家庭に食を提供するというイメージだと思われるが、年々こども食堂も多様化しており、いろいろな形態のところがあるため、こども食堂＝こどもの居場所ではないということ伝えておきたい。

2点目、こども計画のため、こども自身や子育て中の親御さんのサポートをすることに特化しているということは十分に認識しているが、私自身生活をしていて感じるのは、子育て中ではあるが、こどももだんだん大きくなってきて子が手をはなれていくと自分の時間がたくさんできるようになり、自分の居場所はどこにあるのかと少し寂しくなってくることもある。そうした、子育て後の親の居場所があまりない。コミュニティに出て、話をする機会がすごく少ない。妊娠・出産・子育て中の支援は、多いが、その後の支援が少ないため、子育てが終わった後の親御さんの居場所を市の方で作ってもらえると、地域の活性化にもつながるのではないかと思う。

自分の居場所を求めている親御さんに対する支援があれば地域で子育てができると感じている。

(委員)

これだけのことが分かりやすい言葉で、網羅的に説明されているが、どうしたらこうした支援が市民の皆さんに伝わるのかと感じた。

佐倉市のお祭りに準備から参加した際に、今までイベントなどでしかつながりがなかったものが、一体感がある中で、1つの目標に向かって楽しく、遠慮ない関係で子育てができていると感じた。みんながもっと参加しやすくなるような、地域のところに関わるような仕組みができればいいと考える。そうすると、もっと自然と世代をとおして関わり合えるのではないかと思う。

(委員)

障害児の数をどのようにカウントし、計画に反映させるのかという点に対し、目で見えてわかる障害児の数は手帳の数のみであると思うので、私

個人の意見ではあるが、手帳取得者の数でいいのではないかと思う。
また、市の方から提供されるサービスを利用するには、自分の家庭状況を説明する場面が多くあるが、同じことを何度も説明しなければならない。関係機関での情報共有があれば何度も説明しなくても済むのではないか。資料３にライフサポートファイルの作成についての記載があり、このことに関係があるかわからないが、ライフサポートファイルの作成は、「障害のあるこども・若者への支援をします」の中に入っている。この制度は、障害児のみが対象なのか支援等を必要としないお子さんも含めて実施されるものなのか、伺いたい。

（委員長）

情報共有が可能なのかという点とライフサポートファイルの活用が、障害児のみではなく支援等を必要としないお子さんも現状できるのかということをお伺いしたいとのことですが、わかる範囲で結構ですので、説明をお願いしたい。

（事務局）

委員の質問に分かる範囲でお答えすると、ライフサポートファイルの作成については、特別な支援や配慮を必要とする障害児等に作成するものと聞いており、支援等を必要としない方は対象ではないと思われるが、確認する。

ライフサポートファイルを作成し、行政機関のサービスを受ける際にその都度する説明を省略したいとのことについては、今答えを持ち合わせていないため、後ほど回答させていただきたい。

（委員）

承知した。

次回の書面会議でも個々の意見を伝えるところはあるか。

（委員長）

ある。そこで意見を集約して、計画に織り込んでいく形になる。

（委員）

承知した。私もいい案があれば考えてみる。

加えて、私の感じたことを 2.3 点申し上げる。

1 点目、ショートステイの利用者数が 4 名という数値があるが、少なすぎると感じた。私もダウン症のこどもが生まれて精神的に参っていた時期があるが、そうした時に気軽に利用できるサービスというよりはハードルが高すぎるのではないかと思う。皆さんもおっしゃっていたようにより周知して、気軽に利用できるといいのではないかと考える。

2 点目、お子さんを持つ家庭のパパママ心理相談というサービスを利用した際に、利用回数が年に 3.4 回と決められており、少ないと感じた。利用回数の確保をもっと増やしてほしいと思う。

3 点目、小学校の放課後こども教室は、現時点は佐倉市では実施していないのか。

(事務局)

放課後こども教室に関しては、今年度の 6 月の定例会で社会教育課の方で予算が付き、実施に向けて進めており、今年度の途中から開始する。

(委員)

近隣の市で実施しているのを見て、非常に良いサービスであると感じた。学童に入るほどではないけれど、放課後の居場所がないという問題が本会議でも何度も議題に上がっていたので、小学校 1 年生から 6 年生まで抜け目なくサービスを提供できると思われる放課後こども教室の早期実施が望まれる。

また、スクールカウンセラーについても、例えば西志津小学校では、2 名のスクールカウンセラーがいるが、1 人は、月 2 回、もう 1 人は週に数回来る。それでは相談できる回数が少ないので、回数の確保をしてほしい。

最後に、言語指導の佐倉市言葉と発達の教室を利用しているが、こちらでも 3.4 カ月に 1 回という決まりがあり、確保量が足りていないと感じている。

(委員長)

スクールカウンセラーは学校・教育関係に入ってくるかと思われるが、現状こども計画には入れない予定なのか。

(事務局)

スクールカウンセラーについても、教育ビジョンと重なるところもあるが、こども計画の範疇に入っているという認識でいる。

また、「パパママ心理相談」「スクールカウンセラー」「言葉と発達の教室」の数の確保問題については、いずれも計画の中で数に入っていないとのことだが、法律で確保策を書くものが決まっており、それについて列挙している。それ以外の細かい事業が無数にあるがその回数等については、それぞれの事業の単位で目標を定めていく形になる。計画の中では、重点事業については特に目標となる数値や指標を定めて実績を追っていきたいとは思っているが、個々の取り組みについてすべて数値化を目標としていくことは考えていない。それぞれの事業を頑張っていく、予算を確保して増やしていくほかないと考えられる。いずれにしても、今頂いた意見については、担当課に伝えておきたいと思う。

(委員)

法律で書かれているところだけを列挙しているという知識が不足していて申し訳ない。承知した。

(委員)

支援を目指す、増加を目指すと書いてあるが、具体的にどうするのかということ全体的に感じた。計画の案のため、具体的なことは載せるべきではないのかもしれないが、この計画を読んだときに具体的な内容が分かった方が、読んだ人に伝わりやすくなるのではないかと思う。

また、P30 関連指標の自己肯定感について、自分には良いところがあると思う。と答えた児童・生徒の数が、78.7%であり、この数値の増加を目指すとして書いてあるが、具体的には、どのように増加を目指していくべきという考えは市として何かあるのか。

残りの 21.3%の子は、自分には良いところがないと思っているのだと思うとすごくショックに感じた。

自己肯定感を高めるには、親の接し方が大きく関わると思われるが、忙しい状況やストレスが溜まっている状態だと、こどもの話をきちんと聞けなかったり、こどもよりも自分を優先してしまったり、そんな親たちの意識を変えていく必要があると考える。赤ちゃん訪問や1ヶ月検診・6か月検診の時に、市の職員が、具体的にこどもを傷付けてしまう言動や、こどもが自信を無くしてしまう親の言動、こどもに伝わりやすい愛情の示し方を文章ではなく、漫画などで分かりやすく説明しているもの

を配布していた。そうした親の意識を変える働きが必要なのではないかと考える。自己肯定感が高い子が増えれば、おのずと非行なども減らせるのではないかと思う。

最後に、こどもが利用しやすい居場所づくりという点について、私は公園が大切だと考えている。臼井地区にこどもの時から住んでいて、こどもの時から、近所にある公園は変わっていない。佐倉市は、身近な公園の充実度が他市に比べて少ないと感じる。近所の公園は遊んでいるこどもがほとんどおらず、この公園は危険なのではないかと不安にさせるようなところが多い。公園の居心地の良さを追求してほしい。居心地のいい公園であれば、少し遠くからでも遊びに来る。こどもたちがワクワクし、気軽に立ち寄れるような公園を真剣に考えて取り組むべきであると考えている。

(委員)

2.3 点感想にはなってしまうが、伝えていきたい。

1 点目、妊娠・出産期の切れ目ない支援というところが基本施策の展開の方で話があったが、子育ての大綱自体は青年期までこども計画として立案していくという形になるため、基本施策の展開も青年期までの切れ目ない支援というのにも必要なのではないかと思う。

先ほど自分の家族構成について何度も説明しなくてはならないのは市民の側の負担も大きいという意見があったが、出生数自体は減少傾向にあるため、小学校入るまでなど、お母さん一人に対して、保健師さんが一人つくなどの仕組みにすると、切れ目ない支援が継続できるのではないかと思う。市役所内部での人員の配置やシステムの変更なども必要になると思われるので、切れ目のない支援を市として提供していくためには、どういうところを変えていかなければならないのか、重点施策の方で相談支援等の話があるので、それを受け入れるための市としての展開をどのようにしていくのか、具体的な施策の中に盛り込んでいただきたい。

2 点目、こども食堂等の地域のこどもの居場所づくりについて、こども食堂に付随して NPO さんなどがイベントを開催することによって、地域でこどもをみたり、自分の地域での立ち位置もできてくる。

プレーパークに参加していくと、こどもだけでなく、親と NPO の団体の方との間でも交流が生まれ、自然と横のつながりができていっている。では、子育てが終わった後どうするのか、NPO 法人の方の多くは高齢の方のため、世代交代も必要になってくると思うので、そこを市として支援してほしい。

子どもだけでなく、親世代の居場所を作っていく事で、地域の活性化、地域の維持に寄与していくことができると思う。

3点目、市は地元企業やNPOと協力していくことが大切である。例えば他市では、土地を一部買い、食材を持ち寄って料理を作り、一緒に食べるというイベントを行っている。そうしたイベントはSNS等で発信している。子育て世代の方は、おそらく地域のイベント等はSNSを見て参加を決めていると思う。個々のNPO団体で独自に情報発信しているところを支援していく・協力していくと市が積極的に行かなくても、自然と地域のつながりが出来ていくのではないかと考える。市として施策を何か実施するというのではなく、一般企業やNPO団体と協力していくというのは、地域活性化という点においては必要ではないかと感じている。

(委員)

P43.44 こどもの居場所について、公園の割合が大きくでている点と、放課後こどもに過ごさせたい場所という形で部活動の割合が大きくでている点が印象に残った。佐倉市には大きさまざまな公園がある。人口動態があったが、加えて佐倉市の基礎資料、学校の数、中学校の数、公園の数などの資料があってもいいのではないかと思った。

次に p 45.46

児童センターには、各公共施設から様々なチラシが届き、取捨選択しながら置いている。枚数があまり減っていないため、SNSから情報を取り入れているのかと思っていたが、今回の結果からまだチラシによる効果も十分にあると気づいたので、今後もチラシを用いて情報発信をしていきたい。

最後に放課後こども教室について先ほど話があったが、臼井地区で1.2か所ではあるが、試行的に放課後こども教室を実施する方向で動き出したということを報告する。

(委員長)

皆さんの意見を聞いていて思うのは、佐倉市で必要としているのは、こどもの遊び場・学び場等の居場所をどのように作っていくのかという点である。従来のサービスをベースにしていると思うが、新しい活動を今後どのように取り入れていくのかということが課題となっていると思われる。大目的を果たすために、個々のサービスがあるという構成のもっ

て行き方がいいのではないかと考える。

次に拠点づくりについて、子育てに悩んだ人がちょっとしたことでも相談できる環境づくりをしてほしい。児童相談所のような、相談の拠点となるところがあるといいと思う。

また、早朝保育に関する記述があまりないが、利用者は少ないのかという点が少し気になった。

最後にイベントの拠点、人が集まるところを、市が作らなければならないわけではない。遊びやワークショップを展開してくれる団体があるので、そこを盛り込んでいくといいと思う。

今回出た意見を職員の方に盛り込んでいただいて、書面会議の方で詰めていきたいと思う。

それでは、議題の「(2) 佐倉市こども計画案(未定稿)について」は以上にしたいと思う。

続いて、報告事項について事務局から説明を求める。

報告 1 高校生ワークショップの実施状況

(事務局)

【資料 4 こども計画策定のための高校生ワークショップ報告書を用いて説明】

高校生ワークショップについて報告させていただく。

資料 4 こども計画策定のための高校生ワークショップ報告書 の 1 ページをご覧ください。

「佐倉市こども計画」の策定にあたり、こどもの意見を反映させるため、市内在住・在学の高校生を対象としてワークショップを開催した。20名の参加があり、4グループに分かれて意見交換を行った。

次に 2 ページをご覧ください。

テーマは大きく 2 つに分かれており、テーマ①では、

テーマ①の 1 自分が親になったらどんな子育てがしたいか

テーマ①の 2 これまで育ってきた中で、良かったこと、こうしたら良いと思うこと

について意見を出し合った。テーマ①の 1 は子育ての視点、テーマ①の 2 は子育ての視点となっている。

また、テーマ①については、「子育てをするならどんなまちがいいか、子どもにとってどんなまちがいいのか」についても話し合った。
テーマ②では、テーマ①で話し合ったことを踏まえて、「理想の子育て・子育てができるまちのスローガン」について考えた。

意見の概要については、3ページから4ページになる。

テーマ①では、子育て・子育て 両方の視点から、「体験・経験、家族・地域との関わり、教育面」について意見が挙げられ、重要視していることが伺えた。

また、子育ての視点では、遊び場・居場所、交通・安全面の視点からも意見が出た。

4ページの下の方に、テーマ②について記載している。

テーマ②では、4グループ中3グループが、スローガンに「のびのび」という言葉を入れており、子どもが自由にのびのびと成長できる環境を重要視していることが伺えた。

高校生ワークショップの意見は、第3章 基本理念・基本目標に反映させている。

例えば、ワークショップ報告書4ページ、4グループ中3グループが挙げた「のびのび」という言葉は、【資料2 佐倉市こども計画案】の63ページの基本理念に反映させている。また、「笑顔咲く」や「笑顔があふれる」という言葉を入れたグループがあり、基本理念の冒頭、「笑がお咲く」につながっている。

また、これからの作業のなかで、重点施策・基本施策にも反映させる予定である。

続いて、印旛特別支援学校さくら分校で行ったワークショップについて報告させていただく。

【資料5 特別支援学校ワークショップの報告書を用いて説明】

資料5 特別支援学校ワークショップ報告書をご覧ください。

「佐倉市こども計画」の策定にあたり、高校生ワークショップと同様、こどもの意見を反映させるため、印旛特別支援学校さくら分校の1～3年生を対象として、ワークショップを開催した。

43名の参加があり、6グループに分かれて意見交換を行った。

話し合ったテーマは、高校生ワークショップのテーマ①と同様で、

① これまで育ってきた中で、良かったこと

② 自分が親になったらどんな子育てがしたい？

について意見を出し合った。テーマ①は子育ての視点、テーマ②は子育ての視点となっている。

意見の概要については、報告書ページ数3ページ以降に掲載している。特別支援学校の先生のご提案で、5つの項目に意見をグルーピングした。

様々な意見が発表された中で、例えば「居場所」、「繋がり」といった市の施策に関連する意見もあったので、これから基本施策・重点施策を整理する上で、可能な限り、特別支援学校ワークショップの意見を反映させる予定である。

特別支援学校ワークショップの報告については以上である。

報告 2 南志津保育園後継園のフォローアップ状況

令和6年3月に南志津保育園が閉園し、AIAI NURSERY 下志津保育園へ移行したことに對するフォローアップ状況について報告する。南志津保育園から AIAI NURSERY 下志津保育園に移籍した児童の保護者の方を対象に10月末までアンケートを実施し、現在集計中である。11月22日に市と園と保護者の代表の方を集めて三者協議を行う。そこでアンケートで出た意見をフィードバックすることで、AIAI NURSERY 下志津保育園の保育の質を上げていきたいと考えている。次回の推進委員会でアンケートの内容等を示す予定である。

南志津保育園後継園へのフォローアップ状況に関する報告については以上である。

(委員長)

ただいま事務局から説明があった報告事項について、質疑等はあるか。

(委員)

高校生ワークショップで出たスローガンに基づき、こども計画のP63の基本理念の言葉が出来たとのことだが、基本理念はほぼ決定しているものなのか。

(事務局)

委員会に示している案で意見がなければこのまま決めようと思っている。

(委員)

笑顔の顔がワークショップでは、漢字だが、こども計画ではひらがなになっていることには、何か意味があるのか。

また、スローガンというには長すぎて、パッと見で印象に残らない。やわらかいイメージを使いたいということでひらがなが多いのかもしれないが、ひらがなが多すぎると逆に読みづらいと思う。より分かりやすくするなら、漢字にできるところは、漢字にした方がいいと考える。サブタイトルも長い。パッと見で分かりやすいのがスローガンだと思うので、もっと考えてほしい。高校生の意見を全部取り入れたいというのはわかるが、スローガンは短い方がより刺さると思うので、考慮してほしい。

(委員長)

ほぼ確定とのことだが、高校生にはこのスローガンで確定です。と伝えているわけではないのか。

(事務局)

高校生へのフィードバックはまだしていない。最終的な案が固まり、3月にこども計画ができた段階で、どこに意見が反映されているのかということを示したい。

1点、笑顔の「がお」がひらがなになっているのは、現行の第2期計画のスローガンの「がお」がひらがなであり、第2期計画を引き継いでいるという意味合いでひらがなにしている。

加えて、「こども」についてもこども家庭庁がひらがなを推奨しているため、ひらがなが多くなっている印象があると思う。

また、スローガンが長すぎるという意見があったが、市としてはこどもたちの意見をスローガンに反映させたいと思っている。他の委員の方の意見も伺いたい。

(委員長)

スローガンについて長すぎるという意見があった。フォントが全て同じ

で横並び状態になっているなど、レイアウトの仕方によるものもあると思うが、他の委員はどう思うか。

(委員)

スローガンは、長くて、ふわっとしていて、分かりにくいと思った。加えて高校生のそれぞれのチームが挙げた、「のびのび」の意味が共通しているとも思わない。「のびのび」できる町が具体的にはどうゆう町を想像しているのか。例えば、「のびのび暮らせる町」と「のびのびと成長できる」の「のびのび」の意味も異なっているのではないかと思う。どのような意味で「のびのび」という言葉が使われているのかがわかるとより具体的になると思う。

また、スローガンは、難しい内容を分かりやすく伝えるための手段であると思うので、高校生が伝えたかったことは何かということに着目して、1回聞くだけで頭に残るようなキャッチーさがある言葉でまとめてあげてほしい。

(委員)

理念・基本目標・体系の中の基本目標は、第2期計画の方が現在作成中の第3期計画よりもシンプルで分かりやすく書いてあると思う。レイアウト次第で変わるかもしれないが、P63～65は文字が多くて分かりにくいと感じる。案を出してほしい。

(委員長)

可能であれば、次回の子育て支援推進委員会の際に2.3案だしてもらい、どれがいいのか選べるといいのではないかと思う。シンプルさと高校生の意見を重視した案をだしてもらいたい。

南志津保育園のフォローアップ状況については何か意見はあるか。

【意見なし】

それでは、事務局から他に連絡事項等はあるか。

(事務局)

こども計画の策定について、現在、役所内部でも庁内検討会を設置して協議を進めている。

12月の中旬をめどに、みなさまに、庁内で固めた計画を事前に送らせていただく。

年末の忙しい折、大変恐縮だが、ご審議のほどをお願いしたい。

(委員長)

説明していただき、感謝する。

委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご審議いただき、感謝する。

次回は、12月中旬の書面会議になる。書面の回答はどのくらいの期間が設けられているのか。

(事務局)

書面は年内をめどに回答してほしい。

(委員長)

承知した。

次皆様に直接お会いするのは、1月10日(金)となる。

本日議論した「こども計画案」について、委員会として答申を出すことになると思われるので、よろしく願います。

(閉会)